

# 鳥取らしい「木を活かした塀」デザインコンテストの受賞作品について

令和5年2月16日  
鳥取県住まいまちづくり課

## 1 応募総数

55点

## 2 審査結果

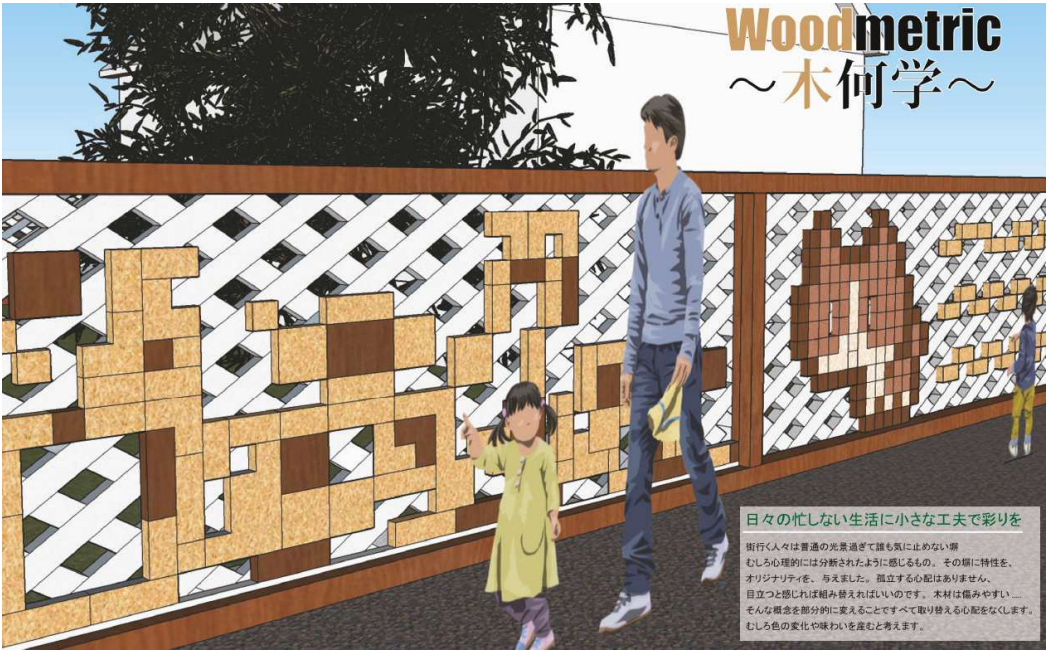
### (1) 全体講評

- ・木塀のデザインという行為を通じて何かを楽しもうとする姿勢を感じられ、「塀といえばこういうもの」という固定概念を打破する意欲的な作品が多く、刺激をいただくことができた。
- ・コミュニケーションが生まれる仕掛けを備えた塀も多く見られ、コンテストを通じて視線や人の動きを「さえぎる塀」から人や地域が「つながる塀」へと昇華されていた。
- ・コンテスト受賞作品を参考にするなどし、公共や民間、和風や洋風などを問わず県内に多くの木を活かした塀や屋外空間が生まれることを期待したい。


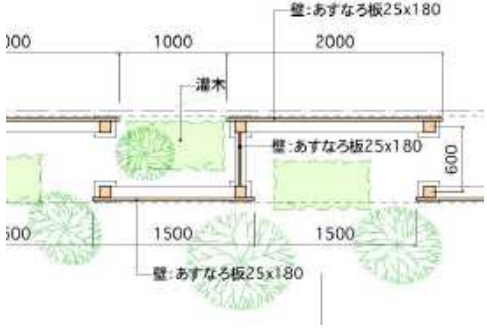
### (2) 受賞作品、応募者氏名及び講評

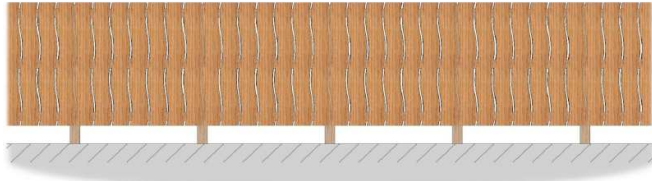
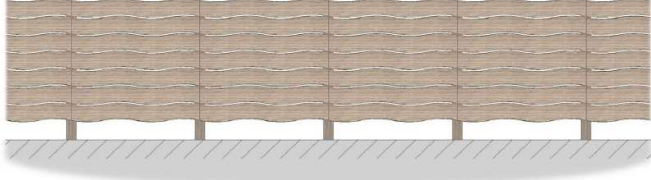
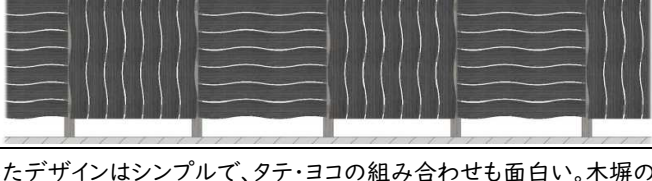
#### ① グッド木塀賞(最優秀):2点

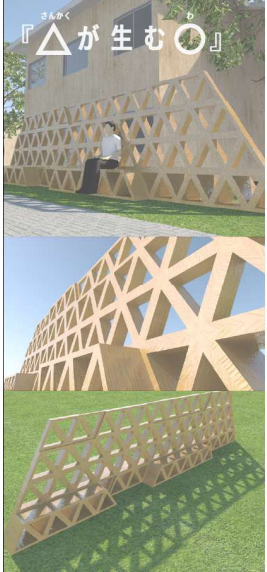
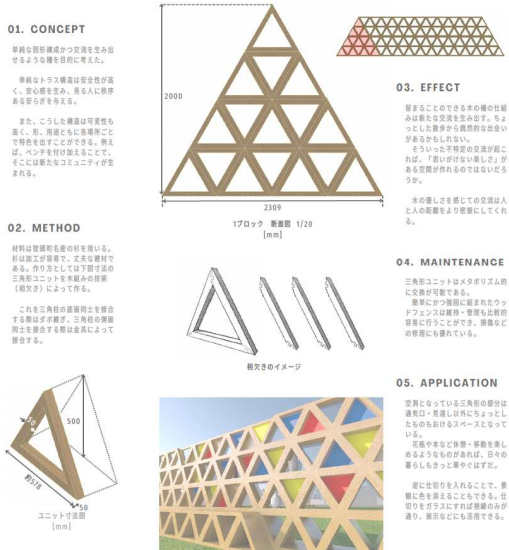
作品名	+α color ~生活にいろとりどりのカラーを付加(+α)する塀~	氏名	原田 浩輔
作品概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・鳥取県産杉材による板塀の隙間にカラフルなガラス板を差し込むことにより、木塀の表情を豊かにする。</li><li>・ガラス板のカラーフィルターを通した陽の光が周囲の道や人、建物を明るくカラフルに照らす。</li><li>・ガラス板は自由に抜き差しできるため、様々なオリジナルデザインやアレンジが可能。</li></ul> 		
講評	<ul style="list-style-type: none"><li>・木塀といえば杉や桧の色、というイメージを変えるカラフルさで、明るく目立つことに加え、塀本体だけでなく、透過する太陽光をもカラフルにするというアイデアが素晴らしい。</li><li>・塀のデザインといえば表面の板材に目が行きがちだが、その隙間に着目したことが面白い。</li><li>・安全性の点からは、色付きのガラス板ではなく、アクリル板等を用いることが望ましい。</li><li>・このデザインをベースに板や隙間の幅を変えたり、色を変えるなど、様々なアレンジができる可能性を感じる。</li></ul>		


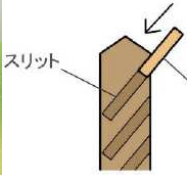
作品名	Wood metric ～木何学～	氏名	柴田 祐
作品概要	<p>・ベースとなる菱形の格子による塀に3種類の樹種(色)、形のパーツを取り付けることで、様々な模様や図柄を表現することを可能とした。</p> <p>・パーツの木材が傷んだ場合は容易に取替が可能で、デザインも変更が可能であるため、長く愛用できる。</p>  <p>日々の忙しい生活に小さな工夫で彩りを 街行く人々は普通の光景過ぎて顔も真に止めない。囁く心情的には分断されたように感じるもの。その塀に特性を、オリジナリティを、与えました。風立する心配はありません。目立つと隠れれば組み替えばいいのです。木材は傷みやすい。そんな概念を部分的に覆えることすべて取り替える心配をなくします。むしろ色の変化や味わいを産むと考えます。</p>		
講評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木塀を設置してそれで完成ではなく、例えば子どもの成長や興味にあわせて図柄を変化させていくなど、コミュニケーションが生まれ、愛着を持って楽しめる仕掛けが素晴らしい。</li> <li>・既製品ラティスフェンスの応用や、家づくりの端材をパーツに利用することも考えられるかもしれない。</li> <li>・ベースとなるフェンスの強度の確保や長く持たせるための耐久性の面については更に工夫が必要。</li> </ul>		

## ② ナイス木塀賞(優秀):5点

作品名	木を活かした塀	氏名	松岡 哲也
作品概要	<p>・高さ2mの塀の強度を確保するため、土台・柱・桁をクランク状に配置。全体に架ける屋根は、強度に加えて木塀を保護し耐久性を向上させる役割も担っている。板塀の配置により、通風と視線の遮へいの両立も可能。</p> <p>・鳥取県産のあすなろや杉の赤身を使用することで、防蟻・防腐剤に頼らずとも耐久性を高めることができる。</p>  		
講評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取県産のあすなろ又は杉の赤身を利用するといった材料選定の提案は素晴らしい。</li> <li>・建築物と調和する屋根付きのデザインは完成度が高いが、一方で設置にあたって敷地に余裕が必要で、設置コストも安価とはいえないのではないか。塀と屋根の日陰による植物への悪影響も課題である。</li> </ul>		

作品名	ととりの木塀 SAMON ~サモンヌ~	氏名	小西 裕美
作品概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取砂丘の風紋(砂紋)をイメージし曲線に加工した鳥取県産杉材による板材を使用。</li> <li>・1メートル角を1ユニットとし、タテ・ヨコに組み合わせることで様々なデザインバリエーションを展開。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;"> <p><b>TATE ver.</b></p>  <p><b>NATURAL</b> 水性ステインの自然塗料でクリア塗装もしくは ブラウン色塗装を施し、素地を活かして自然な風合いに。 幅広いスタイルにマッチする縦格子デザイン。</p> <p><b>YOKO ver.</b></p>  <p><b>GRAYISH</b> 横格子のデザインにグレー色塗装 (水性ステイン/自然塗料)を施すことで、 砂紋のような曲線の流れが続いていくイメージに。 海辺の建物に良く似合いそうだが、 どんな風景にも馴染みやすい組み合わせ。</p> <p><b>MIX ver.</b></p>  <p><b>MODERN</b> 縦ユニットと横ユニットを交互に並べ 動きのあるデザインに。 ブラック色塗装(水性ステイン/自然塗料) を施すことで、リズム感と落ち着き感を 兼ね備えた佇まいに。 住宅のほか、商業施設etcにも。</p> </div> <div style="width: 35%; text-align: right;"> <p>37</p> </div> </div>		
講評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・砂丘をイメージしたデザインはシンプルで、タテ・ヨコの組み合わせも面白い。木塀の裾野を広げるデザイン。</li> <li>・一般的には板材を波状に加工することは容易ではないが、工場で規格化し製品化できれば面白い。</li> </ul>		

作品名	△(さんかく)が生む○(わ)	氏名	疋田 浩佑
作品概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・釘等を使わない木組みの技術により作成した三角形のユニットを組み合わせることでフェンスを構成。</li> <li>・三角フレームの中に花瓶や本を置くことも可能。ベンチを加えるなどし、交流を生み出す場とすることもできる。</li> </ul> <div style="display: flex;"> <div style="width: 30%;">  </div> <div style="width: 70%;"> <p><b>01. CONCEPT</b> 単純な図形(幾何学)の交流を生み出す ような場を最初に考えた。 単純な三角構造は安定性が高く、 安心感を生み、見る人に影響 を与える。</p> <p>また、こうした構造は可塑性も 高く、用途にも応用すること で可能性を広げることができる。例え ば、ベンチを付け加えることで、 そこには新たなコミュニティが 生まれる。</p> <p><b>02. METHOD</b> 材料は製菓用名産の形を用いる。 形は加工が容易で、丈夫な素材で ある。作り出しは半円筒形の 三角形ユニットを木組みの技術 (組立)によって作る。 これを三角柱の設置間隔を調整 する間隔が異なる、三角柱の設置 間隔を調整する間隔を調整によ って作る。</p> <p><b>03. EFFECT</b> 作ることでできる木の質感 は新たな交流を生み出す。ちょ っとした距離から顔を見合わせ が生まれるかもしれない。 そういった不特定の交流が起 これば、「面白いかもしれない」が ある空間が作れるのではないだ ろうか。 木の温しさを感じての交流は人 と人の距離をより近距離にして くれる。</p> <p><b>04. MAINTENANCE</b> 三角形ユニットはタテヨコ に交換が可能である。 簡単に交換可能なため、かつ フェンスは耐用・修理も比較的 容易に行うことができる。損傷など の修理にも優れている。</p> <p><b>05. APPLICATION</b> 公園となっている三角柱の設置 間隔は、設置し方に合わせて したものもあればスペースとな っている。 公園や本など設置・移動を楽 にするようなものがあれば、日々 の暮らしももっと豊かになる。</p> <p>更に仕切りを入れることで、界 限を生み出すこともできる。仕 切りをガラスにすれば視線のみが 通り、展示などにも活用できる。</p>  </div> </div>		
講評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統的な木組みの技術を活かしたユニットはオブジェやファニチャーとしても使い、魅せる塀とできる。</li> <li>・コミュニティスペースや公共の場などに設置することも考えられるが、強度・耐久性の確保は工夫が必要。</li> </ul>		

作品名	ZIGZAG Fence	氏名	民野 美子
作品概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取県産材による木塀をジグザグ形状に配置し強度を確保するとともに、植栽等のスペースを生み出す。</li> <li>・スリット上の目隠し板は抜き差しできるよう柱側面を加工し、傷んだ板はその部分だけを交換できる。</li> </ul>  		
講評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あたたかみがあり、植栽との組み合わせが良く、経年変化も味わいとして楽しめそうなデザインである。</li> <li>・板材を交換できるメンテナンス上の工夫は素晴らしいが、スリットの内部に水が溜まらないよう工夫が必要。</li> </ul>		

作品名	音で楽しむ塀♪	氏名	三島 幸咲
作品概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木塀に梨の木による木琴、マラカス、ギロの打楽器を組み込み、音を楽しむことができる。</li> <li>・塀の材料は鳥取県産杉材を使用し、上部を波状のデザインとすることであたたかみのある印象とした。</li> </ul> 		
講評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音を楽しむことでコミュニティが生まれ、「木」に興味を持ってもらうきっかけとなるのではないかと。</li> <li>・公園や保育施設などにピッタリで楽しい風景が想像されるが、設置の容易さやコスト面は課題が残る。</li> </ul>		